

人権センター 図書だより



Vol.32 令和5年7月10日発行

発行：四日市市人権センター

TEL.354-8609 FAX.354-8611

jinkencenter@city.yokkaichi.mie.jp

6月23日、沖縄では78年目の「慰霊の日」を迎え、各地で平和への祈りが捧げられました。その様子はTVニュースでも放映され、ご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。

太平洋戦争最後の激戦地であり、住民を巻き込んだ地上戦で、県民の4人に1人が亡くなった沖縄戦の史実を知ることは、今なお世界で起きている戦争を直視し、平和を望むことにつながると思います。

人権大学あすてつぷでは、8月の講座として映画「島守の塔」上映会を行います。この映画は、沖縄の本土復帰50周年を迎えた2022年に製作されました。映画をご覧いただき、原作本もお読みください。映画では描かれなかったことに出会えるでしょう。



あすてつぷ
第4回講座

映画「島守の塔」



© 2022 映画「島守の塔」製作委員会

この映画は、第2次世界大戦末期の沖縄戦で、県民の命を必死に守ろうとした知事と警察部長の苦悩や葛藤、戦火に翻弄されながらも必死に生きた沖縄県民の姿を描いた作品です。

戦争末期、沖縄には本土より内務官僚が派遣されていました。兵庫県出身の知事・島田叡(あきら)と栃木県出身の警察部長・荒井退造です。島田は度重なる軍の命令に応えようと奔走しますが、戦禍が激しくなるにつれ、軍を優先し住民保護とは相反する戦意高揚へと向かわせていることに苦悩するようになります。

そして、多くの住民の犠牲を目の当たりにした島田は「県民の命を守ることこそが自らの使命である」と決意します。

平和を考える機会としてぜひご参加ください。

(開催：8月4日(金)13:30～ 四日市市文化会館第2ホール)

講座の関連図書

新着図書の紹介

『沖縄の島守 内務官僚かく戦えり』

(J-2-33 田村洋三 著 中公文庫)

島田叡(あきら)は、太平洋戦争末期に誰もが忌避しようとした官選沖縄県知事を引き受け、困難な戦場行政に身を挺した。荒井退造は、それより先に沖縄県警察部長として赴任、島田の前任知事の職責放棄のなかで孤軍奮闘という形で県民の疎開を推進させた。二人はともに、沖縄戦が事実上終息した直後の昭和20年6月26日に殉死(行方不明)。(本著解説より)

沖縄戦の記録のなかでもわずかしかが語られなかった二人を、著者は入念に冷静に最後まで追い、事績を掘り起こしています。粘り強く、事実を積み重ねることに徹底して戦争と人間を再現した著者の作業は、隠れた歴史を発見しなおすことにもつながりました。

太平洋戦争で国内唯一の戦場となり、地形がすっかり変わるほどの「鉄の暴風」にさらされた沖縄。「暗黒なる壕内」しか命を守る術がなかった沖縄戦で、最期まで人間らしく生き、悩んだ二人の姿が史実を基に描かれています。ぜひお読みください。

『家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった』

(F-240 岸田奈美 著 小学館)

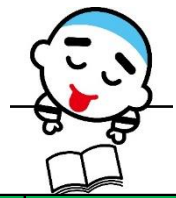
ブログにつづったエッセイがインターネットで拡散され話題となった作家・岸田奈美さんが、自身の「家族」を描く、笑えて泣けて考えさせられて心がじんわりあたたかくなる自伝的エッセイです。

ベンチャー企業家だった父は急逝し、母は突然車いすユーザーに。弟はダウン症、祖母はものわすれの症状が……。そんな家族をめぐる、「楽しい」や「悲しい」など一言では説明ができない日々の出来事が描かれています。

「パパが大好きなママと良太とわたしのことを、最高だって褒めてもらいたくて、エッセイ書きはじめたよ。」(本文より)という著者。車いすの母と、ダウン症の弟の素敵さを紹介し、その二人に助けられている奈美さんの、「みんなが当たり前に行えることが、できない(本文より)」っぷりも正直に描かれた、誰もが心で感じているであろう悩みに、私だけじゃないと共感できる一冊。



新着図書 5月～7月上旬



入荷月	書名	著者等	出版社等	分類番号	
5	沖縄の島守 内務官僚かく戦えり	田村洋三	中央公論新社	J-2	33
5	家族だから愛したんじゃないくて、愛したのが家族だった	岸田奈美	小学館	F	240
7	かくれ織細さんの「やりたいこと」のを見つけ方	時田ひさ子	あさ出版	J-4	12
7	差別はたいてい悪意のない人がする 見えない排除に気づくための10章	(著)キム・ジハ (訳)尹怡景	大月書店	A	144
7	小さな会社はSDGsより先に”人権問題”に 取り組みなさい! 中小企業のための人権デュー・ディリジェンス入門	(編著)ディーセント ワーク推進協議会	日本放送出版社	A	145



新着DVD 4月～6月

分類番号	題名	種類	時間
1 - 195	ともに歩むために ～公正な採用選考の理解と認識をめざして～	研修向き	28分
3 - 072	防ごう 子どもの虐待「日常の子育てから考える」	研修向き	25分
7 - 312	今企業に求められる「ビジネスと人権」への対応	研修向き	35分 13分
7 - 313	あなたの笑顔がくれたもの 周りから見えにくい障害・生きづらさ	ドラマ	37分
7 - 314	1ねん1くみシリーズ (4話収録)	アニメ	51分
7 - 315	ねずみくんのチョッキ② (6話収録)	アニメ	38分
7 - 316	10ぴきのかえる② (2話収録)	アニメ	40分
7 - 317	バースデー	ドラマ	37分
7 - 318	灰色の青空 ～薬物乱用の背景を見つめて～	ドラマ	22分

新着DVDより紹介

『あなたの笑顔がくれたもの』

『周りから見えにくい障害・生きづらさ』 (7-313)



「人権」は日常の何気ない人と人との関係性の中にもあります。

主人公は美容メーカーでリーダーとして働く女性。発達障害のある幼馴染や、オストメイト（人工肛門保有者）の女子高生、祖母の介護をしている同僚など、それぞれ周りからは見えにくい生きづらさを抱えている3人との関わり合いによって、自分の思い込みに気づき、変わる決意をします。

外見で決めつけたり、「障害者」や「ヤングケアラー」などカテゴリーで人を判断したりせず、一人一人が考えや感じ方も違う人間であるということを理解して向き合うことの大切さを、このドラマを通して学んでいくことができます。

職場や家庭内で「人権」について話し合うきっかけとしてお役立てください。